



山形大学医学部長
上野 義之
UENO Yoshiyuki

これまでの 半世紀と、 これからの 半世紀。

2023年秋に山形大学医学部は創立50周年を迎えます。今から50年前というと、日本が高度成長期にあり好調な経済成長と人口増加のさなかにあった時期であり、医師不足が顕著となった時代でもあります。そこで叫ばれたのが一県一医大という政策でした。これは昭和40年代の後半に実施され、山形大学医学部は同期に開設された旭川医科大学と愛媛大学とともに本年設置50周年となります。爾来半世紀にわたり、山形大学医学部は医療の進歩と地域の健康に貢献し続けてきました。これまで多くの若者たちがこの地で学び、優れた医療人、研究者・教育者として社会に貢献してきたことは卒業生、在校生、教職員、そして本学医学部を支援していただいた多くのステークホルダーにとって大きな誇りです。

その一方で医療をめぐる環境は大きく変化しており、今後の「医療」のあり方について世の中からの要請されるものも変わることも予想されています。教育についても本学は臨床実習に重きを置くなど先進的な取り組みを果たしてきましたが、医学教育の変化もその速度を増していて対応するのも簡単ではありません。

しかし「自ら考える医療人の育成」をミッションとした我々は次の時代に必要となる医療・医学教育を念頭に置いて後追いではない先駆的なチャレンジをし続けます。その具体的な方策として本年度新たな教育施設としてYamagata University faculty of Medicine Advanced Innovation Center (YU-MAIセンター)を新しい医学教育のコア施設を設置し、これまで研究を牽引したコホート研究をさらに発展させる全学組織として山形大学Well-Being研究所を飯田キャンパスに設置します。この新しい教育と研究のコア施設を新たな駆動力として次の50年に向けて力強いスタートを切ります。

最後にこれまでの全ての教職員、学生、卒業生、そして関係者の皆様に感謝の意を表します。これまでの山形大学医学部の歴史は、苦難や喜びに満ち、そしてかけがえのないものです。これからも医学の進歩と人々の健康に貢献し続けることをお約束します。



山形大学医学部附属病院長
土谷 順彦
TSUCHIYA Norihiko

山形大学 医学部創立 50周年に 寄せて。

山形大学医学部創立50周年にあたり、これまで医学部の発展にご尽力、ご支援いただきました方々に心から御礼申し上げます。

山形大学医学部附属病院は医学部創設の3年後の1976年10月5日に開院し、10月25日に診療を開始しました。以後、県内唯一の特定機能病院として先進的な医療を提供すると共に、地域に根ざした病院としての役割を果たしてきました。また、山形県内唯一の医育機関に併設された病院として多くの医学生と看護学生の臨床実習や医師の専門研修を通じて、高い倫理観と創造的な医療人の育成に携わってきました。2020年に開所した東日本重粒子センターも順調に稼働しており、既に976名を超える患者さんが治療を終えております。

近年のめざましい医療技術の進歩や目まぐるしい医療環境の変遷のなかで、当院は病院の理念に則り誠心誠意の医療を実践してまいりました。今、医学部創立50周年という節目に立ち、先人諸賢が築いてきた数々の業績を振り返ると共に、次の50年に向けた新たな決意を胸に歩みを進めています。

山形大学医学部附属病院はこれからも医療の発展とより良い地域医療の実践に努めてまいります。みなさまにおかれましては引き続きご指導ならびにご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



【東日本重粒子センター】渡り廊下で附属病院と直結しています



山形大学医学部 創立50周年 記念事業の紹介について

山形大学医学部は令和5年度において、創立50周年を迎えます。
創立50周年を記念して、下記の記念事業を行う予定ですので、ご紹介いたします。

記念講堂の設立・改修事業

本学医学部が開学して以来、6,000名を超える学生が勉学に励んできました。校舎は老朽化も進み、現在、改築補強計画が進められています。このうち、医学部大講義室については、改修を行い、「50周年記念講堂」として整備していく予定です。

記念式典を開催いたします。

本学部創立を記念した式典を、今年度11月に開催予定です。

YU-MAIセンター及び図書館の設備補助事業

YU-MAIセンターとは、Yamagata University faculty of Medicine Advanced Innovation Centerの略称です。レストランや、図書館等を改修することにより、学習スペースを十分確保し、学生や同窓生、メディカルスタッフ等の協働スペースとしての利用を可能にすべく、現在大学側が整備・改修を行っております。同施設の整備の一助となるよう、補助事業を展開していく予定です。

50周年を記念した記念冊子等を作成する予定です。

本学部創立を記念した冊子等について、現在作成に向けて準備をしております。



YU-MAIセンター 完成予想図



ご寄付のお願い

「山形大学医学部 創立50周年記念事業」



山形大学医学部 副学部長
後藤 薫
GOTO Kaoru

山形大学医学部は、昭和48年9月に新設医学部の一期校として設立され、「人間性豊かな自ら考え解決する力を持つ医療人・研究者等の養成」を建学の精神とし、医学部附属病院とともに「山形県における地域医療の中核的役割を担う」べく、日々活動しています。本年令和5年、山形大学医学部は創立50周年の節目を迎えます。また平成5年に開学した看護学科も設立30周年となります。今回、医学部創立50周年記念事業として、400人規模の「50周年記念講堂」と、「YU-MAIセンター」を整備する計画を進めておりますが、YU-MAIセンターはメディカルスタッフの皆さんとの協働スペースとして利用可能な複合施設です。山形大学医学部の益々の発展と飛躍の礎を築き上げ、さらに強固なものとするために、何卒、この趣旨にご理解、そしてご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

▼詳細はウェブサイトでご検索▼

<https://www2.id.yamagata-u.ac.jp/>

山形大学医学部 50周年



山形大学医学部50年の歩み

【山形大学医学部の沿革】

- 1968 山形県に山形大学医学部設立準備委員会が設置された。
12.13
- 1971 評議会において山形大学医学部の設置を推進することを決定した。
6.18
- 1972 山形大学医学部創設準備室を設置した。
8.1
- 1973 国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和48年法律第103号)の公布、施行により、医学部が設置された。
9.29
- 1976 山形大学医学部附属病院が設置された。医学部及び附属病院の事務を併せて処理する事務部として、医学部事務部が置かれた。
5.10
- 1976 第1回医学部慰霊祭及び医学部慰霊塔除幕式を挙行了した。
5.14
- 1976 医学部及び医学部附属病院竣工記念式典を挙行了した。
10.5
- 1976 医学部附属病院の診療を開始した。
10.25
- 1976 医学部附属病院の入院患者受入れを開始した。
11.8
- 1978 山形大学附属図書館医学部分館が設置された。
4.1
- 1979 昭和53年度(第1回)医学部卒業式を挙行了した。
3.20
- 1979 山形大学大学院医学研究科(博士課程)が設置された。
4.1
- 1979 昭和54年度(第1回)山形大学大学院医学研究科入学式を挙行了した。
4.26
- 1980 山形大学医学部附属動物実験施設が設置された。
4.1
- 1983 医事業務の電算化を開始した。
1.4
- 1983 昭和57年度(第1回)山形大学大学院医学研究科学位授与式を挙行了した。
3.23
- 1983 山形大学医学部附属実験実習機器センターが設置された。
4.1
- 1983 山形大学医学部創設10周年記念式典を挙行了した。
9.24
- 1985 実験動物慰霊碑除幕式を挙行了した。
11.11
- 1988 山形大学附属図書館医学部分館創設10周年記念式典を挙行了した。
5.28
- 1993 医学部看護学科が設置された。寄附講座「細胞情報解析学(山之内講座)」が設置された。
4.1
- 1993 平成5年度(第1回)医学部看護学科入学式を挙行了した。
4.26
- 1993 山形大学医学部創設20周年記念式典を挙行了した。
11.6
- 1997 平成8年度(第1回)医学部看護学科卒業式を挙行了した。
3.25
- 1997 山形大学大学院医学研究科の名称が山形大学大学院医学系研究科に変更された。山形大学大学院医学系研究科に看護学専攻(修士課程)が設置された。
4.1
- 1997 平成9年度(第1回)山形大学大学院医学系研究科看護学専攻入学式を挙行了した。
4.24
- 1999 平成10年度(第1回)山形大学大学院医学系研究科看護学専攻学位授与式を挙行了した。
3.25
- 2003 文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択。拠点プログラム名称「地域特性を生かした分子疫学研究」。
7.17
- 2003 山形大学医学部創設三十周年記念式典を挙行了した。
11.15
- 2004 山形大学大学院医学系研究科生命環境医科学専攻(博士課程、前期・後期課程)を設置した。
4.1
- 2005 医学部がんセンターが設置された。
4.1
- 2007 山形大学大学院医学系研究科看護学専攻(博士課程、前期・後期課程)を設置した。
4.1
- 2008 文部科学省「グローバルCOEプログラム」に採択。拠点プログラム名称「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」。
6.18
- 2009 スチューデントドクター制度を全国に先駆けて導入
1.19
- 2010 平成21年度(第1回)山形大学大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程学位授与式を挙行了した。
3.25
- 2010 寄附講座「地域医療システム講座(山形県)」が設置された。
4.1
- 2010 スチューデントナース制度を全国に先駆けて導入
8.23
- 2012 山形大学医学部附属実験実習機器センターと山形大学医学部情報基盤センターを統合し、山形大学医学部教育研究支援センターを設置した。
4.1
- 2013 山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所が設置された。
4.1
- 2013 山形大学医学部創立四十周年並びに看護学科設立二十周年記念式典を挙行了した。
11.25
- 2014 附属動物実験施設、教育研究支援センター、RIセンター及び遺伝子実験施設がメディカルサイエンス推進研究所に包括された。
1.1
- 2014 寄附講座「地域医療人キャリアアップ推進講座(山形県)」が設置された。
4.1
- 2015 山形大学医学部がん研究センター開所式を挙行了した。センター内に石坂公成博士足跡記録展示場が開設された。
3.9
- 2015 寄附講座「先進がん医学(日新製薬)講座」が設置された。
4.1
- 2016 寄附講座「最先端医療創生・地域の医療人育成推進講座(山形県)」が設置された。
4.1
- 2017 山形大学大学院医学系研究科先進的医科学専攻(博士課程、前期・後期課程)を設置した。
4.1
- 2019 山形大学医学部附属病院が厚生労働省「がんゲノム医療拠点病院」に指定された。
9.19
- 2020 山形大学医学部東日本重粒子センター開所式を挙行了した。
12.14



重粒子センター、フル稼働中。

山形大学医学部
東日本重粒子センター長
岩井 岳夫
Iwai Takao



3年に重粒子線治療施設を立ち上げるミッションのため、山形大学医学部に移り、以来ここ飯田キャンパスで勤務しております。現在の専門は医学物理学であり、医学物理士と第一種放射線取扱主任者の資格を持っています。

山形着任以来ずっと手掛けてきた東日本重粒子センターは、当初の治療開始予定より遅れることにはなりませんが、令和4年10月について全ての対象となるがんへの治療ができるようになりました。これにより、肺癌や大型の肝細胞癌など難治がんの治療数が増えつつ伸びてきました。また県外から来院される患者さ

4月1日付で根本前センター長の後任として東日本重粒子センター長に就任した岩井岳夫です。出身はNHK連続テレビ小説「らんまん」の舞台として急に知名度が上がった高知県佐川町で、神木隆之介さん演じる主人公のモデルとなった植物学者の牧野富太郎は自分の遠縁にあたります。1990年に東京大学工学部原子力工学科を卒業し、その後1995年に東京大学大学院工学系研究科にて博士(工学)を取得しました。大学院終了後は東京大学の加速器施設で助手・助教として研究に従事しましたが、201



当センターの心臓部とも言える回転ガンジー本体の前で(回転ガンジー照射室の裏側)

んも増えています。重粒子線治療の空白地帯であった東北地方唯一の重粒子線治療施設として、高度がん医療の均てん化に貢献するという当センター設立以来の目標に一歩ずつ近づきつつあると手応えを感じています。自分は医師ではないので患者さんと直接お話しできる機会がなかなか無いのですが、患者さんのアンケートの回答では当センターは全般にわたってきわめて高く評価していただいております。立ち上げから携わった者として感慨深いものがあります。

現在当センターでは、毎月60〜70名程度の治療申し込みを受け付けています。この中から重粒子線治療が適応になった患者さんに対して、安全を最優先に重粒子線治療を提供していくことが当センターの第一のミッションです。それが達成された上で、病院と直接接続された強みを生かし、他診療科との強力な連携



この加速器によって光の速さの70%近くまで加速させた炭素イオン(重粒子)を患部にピンポイントで照射



スタッフ一丸。回転ガンジー照射室で

「山形コホート研究」を活かした地域住民の個別化健康・幸せづくり 山形Well-Being研究

山形大学大学院医学系研究科
公衆衛生学・衛生学講座 教授
今田 恒夫
Konita Tsuneo

山形大学医学部が長年行っている山形コホート研究には、2万人を超える多くの県民の皆さんにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。皆さんのご協力により、山形県民の健康、病気の要介護、フレイル、幸福度などに関係する因子が明らかになってきました。その結果、血圧、血糖、肥満などの検査値以外にも、心の状態や人のつながりなどが健康に大きく関わっていることが初めて示されました。これからは、これまでに得られた山形コホート研究の成果を山形県民の健康と幸せに役立てていきたいと考えています。その目標は、単なる「長生き」ではなく「Well-Being(健康で幸せ)な長生き」です。Well-Beingとは、身体・心・社会とのつながりなど、全てが良好な状態のことです。健康や幸せについての考え方は個人によって異なります。個人の好みや考え方などについての情報をアプリなどによって集め、これまでの研究成果と合わせることで、より個人に合った健康・幸せづくりができます。個人や地域に合わせたプログラムを提案し広めることを通して、「Well-Being(健康で幸せ)な長生き」に向けた行動変容をサポートしていきます。

ます。このプロジェクト山形Well-Being研究は、医学、農学・工学、理学・地域教育文化学・人文社会科学など様々な専門家によって運営される山形大学Well-Being研究所が中心となり、自治体・企業などと連携しながら、地域全体で取り組みます。山形県民が日本「Well-Being(長生き)となるように、私たちも研究を続けてまいりますので、引き続きご協力よろしくお願致します。



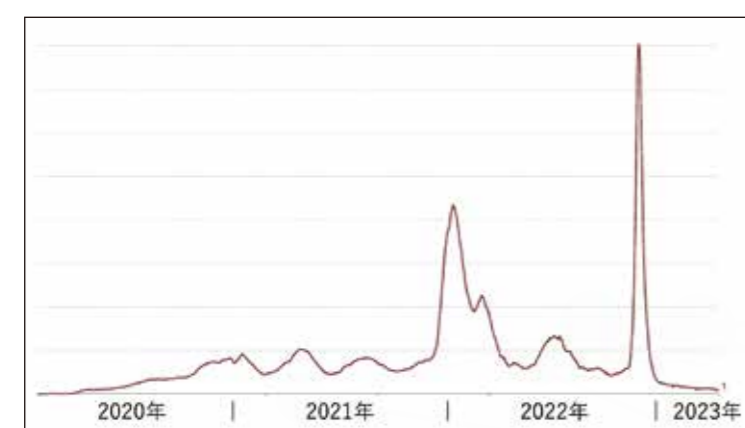
ウィズコロナの時代に 向けて

山形大学医学部附属病院
検査部長・病院教授・感染制御部部長
山形大学理事特別補佐(危機管理担当)
森兼 啓太
MORIKANE Keita

2020年の初頭から流行しはじめた新型コロナウイルス感染症は、世界中で7億人以上の感染者と700万人近い死者を発生させました。その一方で、感染者数を増やさないための様々な方策やワクチンの開発・製造・接種が迅速に行われたこともあって、感染者や死者の数は相当程度抑えられたと考えられます。そして、2023年の半ばにようやく大きな流行が起これなくなりました。最終的には多くの人が感染することによって、社会全体に免疫がある程度備わってきたためと考えられますが、コロナウイルスの特性から考えて、このようなゴールは当初から想定されていません。

もはや「新型」ではないコロナウイルスですが、既に風邪の原因ウイルスとして4種類がヒトの世界に定着しています。5種類目のコロナウイルスが定着するのかもしれないのはまだわかりませんが、少なくとも当分流行し続けると考えられます。従って、これからの時代はアフターコロナではなくウィズコロナです。社会全体である程度の流行を許容しつつ、ポイントを抑えた対策を行うのが、ウィズコロナの時代において我々が考えるべきことです。

病院の入院病棟には、体の弱い人が集まり、しかも手術などの治療を受けて一時的に更に弱い体になり、感染症にかかると一気に体調が悪化しかねま



図：新型コロナウイルス感染症の流行イメージ。ourworldindata.orgのデータを活用

“ヒザが痛い” 最新の手術技術 ～人工膝関節全置換術 AR ナビゲーション～

TOPICS

人工膝関節全置換術 (TKA) AR navigation

変形性膝関節症は、加齢や怪我等が原因で、関節表面の軟骨がすり減り、徐々に膝の骨が変形し、痛みや腫れ、動きの制限が生じ、日常生活に支障をきたす疾患です。50歳以上で、エックス線上、変形性膝関節症を認める人は2,400万人、そのうち痛みを有する人は820万人と言われています。治療は、早い段階であれば、減量、装具療法、鎮痛剤の内服やヒアルロン酸などの注射療法、リハビリテーションなどが有効ですが、進行して症状が強い場合は手術が必要になります。鏡視下手術、骨切り術、人工関節置換術 (TKA) がありますが、中でもTKAは早期に痛みを軽減できる手術で、日本では、年間約8万件行われています。

TKAは、歴史が長く、世界中で広く行われており、安定した手技ですが、最近では患者さん個々の下肢の形にあわせて人工関節を設置するという方法も行われるようになりました。そのためには、正確な術前計画と手術手技が必要となります。当院では、今年2月に国内の大学病院としては初めて拡張現実 (augmented reality: AR) を利用したナビ



「スマートグラス」で情報を見ながら手術

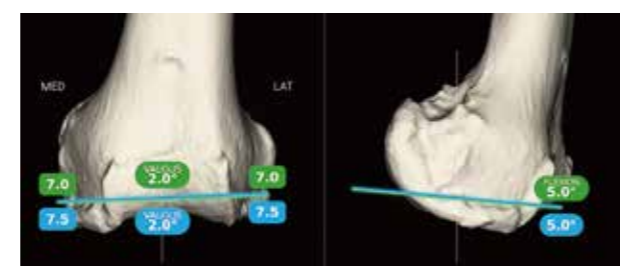
ゲーションシステムを導入しました。術者が着用する「スマートグラス」に、骨を切る角度や厚みなど必要な情報が表示されるため、モニターと術野に視線を移すことなく手術ができ、時間短縮、正確性の向上に繋がります。また、膝の内側と外側のバランスを可視化することができるため、将来的には患者個々の膝に適した形で人工関節を設置することができる時代が来るかもしれません。ヒザが痛くてお困りの方がおられましたら、いつでもご相談ください。

山形大学大学院医学系
研究科整形外科学講座
教授

高木 理彰
TAKAGI Michiaki

山形大学医学部
附属病院 整形外科
講師

鈴木 朱美
SUZUKI Akemi



「スマートグラス」に映し出される情報

TOPICS

山形県医療的ケア児等支援センターのご紹介

令和3年9月に『医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律』が施行され、令和4年7月に「山形県医療的ケア児等支援センター」が県からの委託で山形大学医学部附属病院内に設置されました。医師・医療ソーシャルワーカー・事務員が配置されており、医療的ケア児・者やその家族、支援者や関係機関等に困り事があった際にはワンストップで対応できるようになっています。

医療的ケアが日常的に必要な方々は全国では2万人を超えて増加傾向であり、山形県には165人の医療的ケア児がおります (県障がい福祉課調べ)。

開設以降、家族をはじめ医療機関、保健所、自治体、サービス事業所、保育施設、学校といった様々な関連機関から相談が寄せられています。内容としてはレスパイト・移動・医療・福祉サービスの利用、災害対策といった日常の様々な支援に関して、入園・入学支援・移行期医療といっ

たライフステージで生じる課題についての相談が多い状況です。

医療的ケア児・者を抱えるご家族の負担は大変大きく休息が取れない、移動の負担が大きいなど、すぐに解決策を見出すことが難しい問題があります。一方で「医療的ケアを受けながら地域の保育園や学校に行きたい」という声に対して、行政および園や学校と共に体制整備をすることで、県内においても医療的ケア児の通園・通学が可能になった事例があります。

医療的ケア児・者の支援者に対して基本的な手技や緊急時対応を学ぶ「山形県医療的ケア児直接処遇者研修」や訪問診療に病院の主治医が訪問診療医と一緒に向う「小児科主治医同行訪問事業」といった県事業の活用、他機関との連携や情報共有で、積極的に病院から地域に向き、チームで医療的ケア児の社会生活の改善推進に取り組んでいきます。

人と人をつなげる

相談
支援

人材
育成

情報集約・
調査・共有



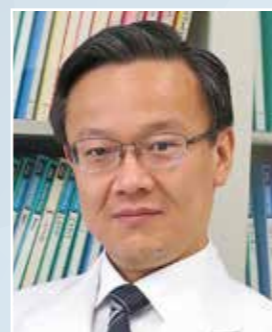
(前列左) 医師、(右) 事務員 (後列) 医療ソーシャルワーカー



「山形県医療的ケア児直接処遇者研修」(講義、実技、緊急時対応)

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等



山形大学大学院医学系研究科 医学専攻
精神医学講座 教授

鈴木 昭仁
SUZUKI Akihito

①山梨県 ②1970年 ③弘前大学医学部 ④読書、漫画、居酒屋巡り

2023年1月1日付で、大谷浩一前教授の後任として、精神医学講座に着任しました。

私は山梨県笛吹市で生まれ、駿台甲府高校を卒業後、弘前大学医学部を1995年に卒業しました。臨床精神薬理学や精神遺伝学の研究を行い、1999年弘前大学大学院を修了しました。弘前大学附属病院や青森県のいくつかの精神科病院で臨床を練磨したのち、2004年に山形大学医学部に赴任し現在に至っております。

精神医学の対象領域は、うつ病や統合失調症などの成人期の精神疾患を対象とする分野だけでなく、子供を対象とする児童青年期精神医学、老年期を対象とする老年精神医学、薬物療法・電気痙攣療法・認知行動療法などの各種治療学分野、法律と関連した精神医学的問題を扱う司法精神医学、産業精神医学など、非常に多様性に富んでおります。また精神医学分野

は科学的に未開拓の領域が多く、今後エキサイティングな発見が期待されます。医学部生や若手医師にこの精神医学の魅力伝えて、良い精神科医を育成していくことが私の教授としての務めと考えております。

私は、山形県内の医療機関や老健施設、学校、精神保健福祉センター、保健所、警察などと役割分担しつつ連携しなければ適切な精神科医療を行うことが出来ないと考えています。そのため、連携を強固なものとして、山形大学を県内の精神科医療のネットワークの中心として、地域医療の向上に貢献したいと思っております。

引き継いだ山形大学医学部精神医学講座を発展させ、次世代に引き継いでいきたいと思っております。諸先生方におきまして暖かく見守っていただきながら、時には厳しくご指導いただけるようお願いいたします。



山形大学大学院医学系研究科 看護学専攻
地域看護学分野 教授

森鍵 祐子
MORIKAGI Yuko

①岩手県盛岡市 ②1977年 ③山形大学医学部看護学科 ④読書、散歩

2022年5月1日付で、小林淳子前教授の後任として、地域看護学分野教授を拝命いたしました。私は岩手県盛岡市出身で、東北大学医療技術短期大学部看護学科、山形大学医学部看護学科を卒業後、岩手県立病院の看護師、社会保険健康事業財団の保健師として看護業務に従事いたしました。2009年より本学にて教育研究に携わらせていただいております。

地域看護学分野では、行政保健、産業保健、学校保健を対象とした公衆衛生看護学の教育と研究を行っております。公衆衛生看護学は、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層を対象とし、地域で生活するすべての人々の健康とQuality of Lifeの向上を目指しております。教育においては、公衆衛生看護を担う保健師の実践能力を育成することを目標に取り組んでおります。研究においては、教員と大学院生が、実践現場への還元

を目指した研究課題に取り組んでおります。当分野は、県内自治体とのつながりが強いことと、行政保健だけでなく、産業保健に関する教育、研究が充実していることが特長です。

少子高齢化、人口減少が進むなかで、地域で生活する人々が、その人らしく、より健康に過ごすためには、予防の視点で支援する保健師の役割は大きいと考えます。病気の予防だけでなく、病気や症状を早期に発見し、治療や生活改善などに早期に結び付けることがますます必要になっていくと考えます。さらに、安心して生活するためには、からだの健康に加えて、こころの健康や、人との付き合いなども重要と考えております。地域で生活する人々の健康を支えられるよう、邁進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

令和4年度
学会賞等受賞
CONGRATULATIONS

河合 賢朗 外科学第一講座
The Best Doctor(The Best Doctor in Japan)2022-2023
鈴木 修平 内科学第二講座 臨床腫瘍学分野
第35回内科学会奨励賞令和4年4月
白田 亨 検査部
瑞宝双光章令和4年4月
齊藤 律子 看護部
瑞宝双光章令和4年4月
佐藤 洋子 看護部
瑞宝单光章令和4年4月
堺 貴之 内科学第二講座
米国消化器病学会 A Poster of Distinction令和4年5月
阿部 綾子 看護部
山形県看護協会感謝状令和4年5月
山口美智子 看護部
山形県看護協会感謝状令和4年5月
齊藤さとみ 看護部
山形県看護協会感謝状令和4年5月
須賀 恭子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状令和4年5月
中嶋富美子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状令和4年5月
大山 希代 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状令和4年5月
森谷こずえ 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状令和4年5月
渡邊 正子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状令和4年5月
金井 貴幸 重粒子線医学講座
第123回日本医学物理学学会学術大会 ICRPT賞 Certificate of Merit Award 令和4年5月
山口理紗子 産科婦人科学講座
第151回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会 若手奨励賞令和4年5月
金子 宙夢 産科婦人科学講座
第151回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会 若手奨励賞令和4年5月
山口 竜平 内科学第一講座
第174回日本循環器学会東北地方会Young Investigator's Award 優秀賞令和4年6月
志鎌 拓 内科学第一講座
Japan Endovascular Treatment Conference(JET) 2022 Under 35 challenge!! 優秀賞令和4年6月
河合 賢朗 外科学第一講座
2022年日本乳癌学会Reviewer賞令和4年6月

有本 貴範 内科学第一講座
第28回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 一般演題 優秀賞令和4年7月
小野里祐介 内科学第二講座
第104回日本消化器内視鏡学会総会 若手奨励賞令和4年10月
小野里祐介 内科学第二講座
第104回日本消化器内視鏡学会総会 優秀演題賞令和4年10月
竹原 功 産科婦人科学講座
第152回東北連合産科婦人科学会・第69回北日本産科婦人科学会 優秀演題賞令和4年10月
松田 未羽 検査部
第41回山形医学検査学会 若人奨励賞令和4年11月
大宮 美穂 看護部
IQVIA Certificate of Appreciation令和4年12月
川村 一郎 外科学第一講座(第一外科)
ESMO Asia 2022 Travel Grant(日本臨床腫瘍学会)令和4年12月
小林 祐太 内科学第一講座
第175回日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 優秀賞令和4年12月
水戸 琢章 内科学第一講座
第175回日本循環器学会東北地方会 会長奨励賞令和4年12月
岩井 岳夫 重粒子線医学講座
日本量子医科学会第2回学術大会 優秀ポスター発表賞(物理・工学部門)令和4年12月
今野久美子 看護部
令和4年度医学教育等関係業務功労者賞令和4年12月
青野 智典 内科学第一講座
第6回日本循環器学会基礎研究フォーラム(BCVR) Best Abstract Award令和4年12月
宇野 智洋 整形外科学講座
第35回日本肘関節学会学術集会会長賞令和5年2月
今田 恒夫 公衆衛生学・衛生学講座
日本痛風・尿酸核酸学会 最優秀論文賞令和5年2月
今田 恒夫 公衆衛生学・衛生学講座
第56回日本痛風・尿酸核酸学会 優秀演題賞令和5年2月
鈴木奈津子 公衆衛生学・衛生学講座
第56回日本痛風・尿酸核酸学会 優秀演題賞令和5年2月
大瀧陽一郎 先進心血管治療学講座
第56回日本痛風・尿酸核酸学会 優秀演題賞令和5年2月
藤井 聡 生理学講座
一般社団法人日本生理学会 感謝状令和5年3月

※所属については、受賞時のものである。

人じん事じ往おう来らい
(R4.5.1~R5.4.1)

年月日	異動前	氏名	異動後	年月日	異動前	氏名	異動後
R4.5.1	地域看護学分野 准教授	森鍵 祐子	昇任 地域看護学分野 教授	R5.3.31	外科学第一講座 講師	大塩 博	退職 (仙台オープン病院)
R4.6.1	腫瘍分子医科学講座 講師	岡田 雅司	昇任 腫瘍分子医科学講座 准教授	R5.3.31	第三内科 講師	亀田 亘	退職 (県立中央病院)
R4.10.1	地域看護学分野 助教	赤間 由美	昇任 地域看護学分野 准教授	R5.3.31	NICU 准教授	佐々木綾子	退職
R4.10.31	臨床腫瘍学分野 助教	鈴木 尚樹	退職 (山形県立中央病院)	R5.4.1	第二外科 講師	中村 潤	昇任 外科学第二講座 准教授
R5.1.1	精神医学講座 准教授	鈴木 昭仁	昇任 精神医学講座 教授	R5.4.1	放射線腫瘍学分野 講師	佐藤 啓	放射線腫瘍学分野 准教授
R5.3.31	解剖学第一講座 教授	内藤 輝	定年退職	R5.4.1	精神科 講師	小林 良太	昇任 精神医学講座 准教授
R5.3.31	内科学第三講座血液・細胞治療内科学分野 教授	石澤 賢一	定年退職 (東北福祉大学)	R5.4.1	医療政策学講座 講師	池田 登顕	昇任 医療政策学講座 准教授
R5.3.31	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授	欠畑 誠治	定年退職 (太田総合病院)	R5.4.1	放射線診断学分野 助教	桐井 一邦	昇任 放射線診断学分野 講師
R5.3.31	麻酔科学講座 教授	川前 金幸	定年退職 (太田西ノ内病院)	R5.4.1	精神医学講座 助教	白田 稔則	昇任 精神科 講師
R5.3.31	臨床看護学分野 教授	佐藤 幸子	定年退職 (仙台青葉学院短期大学)	R5.4.1	内科学第三講座神経学分野 助教	佐藤 裕康	昇任 内科学第三講座神経学分野 講師
R5.3.31	内科学第三講座神経学分野 講師	伊関 千書	退職 (東北大学)	R5.4.1	第三内科 助教	伊藤 巧	昇任 第三内科 講師
R5.3.31	眼科学講座 准教授	西塚 弘一	退職 (埼玉医科大学)	R5.4.1	(帝京大学)	濱本 洋	採用 感染症学講座 教授

編集後記

今回は、本院の母体となる医学部の50周年に際した内容をご紹介しました。後半は重粒子線治療の現況やウィズ・コロナの中での医療について、新たな分野として山形Well-Being研究、最新医療に関する内容として人工膝関節全置換手術、医療的ケア児等支援センターの設置をお伝えしています。ウィズ・コロナの時代が進んでいくように、本院の事業等もまた、新たな歩みを進めてまいります。

今後とも、本院では、より安心・安全な医療の提供に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

病院ニュース編集担当 総務課広報担当

